

象成

栃木市立大宮北小学校だより

令和6年度臨時号 HP版 文責：校長

明治6年に本校の前身として開校された「象成学舎」の名にちなみ、学校だよりの題字を「象成」(しょうせい)としました。

大宮北小・ホームページ

<https://tm2.tcn.ed.jp/o-kita/>

QRコードから
スマートフォン等でも
日頃の様子をどうぞ
ご覧ください。



校内研修で長縄を体験する 教職員集団

本校の教育活動の成果と課題を把握するために、教職員、児童、保護者を対象としたアンケートを実施しました。保護者の皆様には、ご多用のところアンケートにご協力いただきありがとうございました。

アンケート結果を分析・考察するとともに、学校関係者のご意見を踏まえながら、教育活動の改善を図ってまいります。

これからも、チーム大北で力を合わせて、“子どもファースト”に努めていますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

I アンケート結果について



(1)表内の数値は、「そう思う」「ややそう思う」の合計(%)です。

下段【】内は、「そう思う」のみの数値です。

(2)質問項目①は、教職員と保護者のみの質問です。

(3)質問項目⑨は、6年生児童のみ対象としています。

(4)質問項目No.7以外は、東陽ブロック小中学校共通です。

No.	学校経営との関連	質問内容	児童	保護者	教職員
①	学校と家庭・地域との情報共有	学校だよりや各種たより、ホームページ等により、情報を意図的・計画的に発信している。	—	96 【60】	100 【97】
②	体験活動の充実	地域とともにある学校づくりのために、各種学校行事等を意図的・計画的に行っている。	86 【59】	88 【39】	100 【82】
③	「小さな親切」8か条の推進	児童のあいさつ指導に継続して取り組んでいる。	88 【51】	79 【35】	97 【59】
④	家庭学習の充実	宿題等の家庭学習の習慣が身に付くよう工夫しながら継続して指導している。	88 【57】	84 【41】	100 【72】
⑤	学習指導の工夫改善	児童が、自分の意見や考えを友達と交流し合い、考えを広げたり深めたりできるような活動の設定やタブレット等のICT機器を効果的に活用している。	75 【39】	73 【29】	97 【56】
⑥	グローバル教育の推進	インターネットやSNSの使い方について、約束を守って正しく安全に使用できるよう、学年に応じた指導をしている。	94 【78】	80 【33】	100 【56】
⑦	児童指導の充実	児童一人一人の学習状況や友達関係等を把握し、家庭と連携しながらきめ細かな指導をしている。	92 【69】	74 【29】	100 【59】
⑧	児童理解によるいじめ防止の推進	教育相談やいじめに関するアンケートを実施するなど、いじめ防止等に取り組んでいる。	88 【56】	74 【28】	100 【82】
⑨	小中一貫教育の推進	小中一貫教育を意識して取り組んでいる。	93 【64】	72 【25】	97 【49】

2 結果の分析・考察について

①	情報発信は高評価で、本校の特色のPRにつながっているので、さらにこまめな発信、内容の充実に努める。
②	年間を通して学校行事等の見直しを進め、学校と家庭・地域が目標を共有し、児童が主体的に活動できていることがわかる。さらに工夫・改善を図っていく。
③	保護者や教職員が課題を感じていたが、東陽ブロックや児童会の取組の効果が大きいことがわかる。家庭・地域と連携した取組を工夫していく。
④	家庭学習の目的や方法等の共通理解が図れ、おおむね高評価である。より「やりがい」・喜び・自信を感じる家庭学習につなげていく。
⑤	児童の考えを広げ深め合う授業実践につながっている。授業はもちろん、家庭でのタブレットの有効活用を進めていく。
⑥	保護者や教職員が課題を感じていることから、東陽ブロックで作成した「情報モラル CAN DO リスト」を活用しながら、学年に応じた指導の充実を図っていく。
⑦	教育相談や様々な場の設定等を工夫し、児童・教職員は高評価である。さらに保護者と連携しながら、きめ細かな指導に努める。
⑧	保護者の評価がやや低いことから、全教職員で未然防止・早期発見・早期解決に向けてチーム対応していく。いじめ防止の取組の情報発信に努め、保護者との連携をより密にしていく。
7	教育相談や様々な場の設定等を工夫し、児童・教職員は高評価である。さらに保護者と連携しながら、きめ細かな指導に努める。

3 学校関係者評価の結果について

2/4(火)に第3回学校運営協議会を実施し、委員の皆様からアンケート結果等を踏まえたご意見をいただきました。



- ◇ あいさつについては、地域の会合でもよくなってきたことが話題になった。
東陽ブロックでの取組の成果が大きく、小学生の姿に変容が見られ、評価結果の数値にも現れているのはうれしい。児童と教職員にそのことを伝え、さらに、取組の継続と充実をお願いしたい。
- ◇ 学習におけるアシストネットの活用を通して、児童とともに教職員へのサポートにもなっていることを感じる。特に、初めての活動(ミシン・カッター等)の学習の際は、学級による進め方・指導内容等を共通理解しておいてほしい。手順の指示や繰り返し動画を視聴できるようにするなど工夫し、充実を図るとよい。
- ◇ 教育相談について、いじめ等をテーマとした他の会議でも取り上げられる話題であるが、本校の評価結果から、よい取組状況がうかがえる。相手がいやな思いになる言動は「いじめ」であるので、今後も児童へのきめ細かな指導を継続してほしい。
- ◇ 教職員の肯定的評価が向上しているので、児童にとっても良い影響があると考える。学校ホームページもよく閲覧しているが、楽しい内容の発信でよい。
- ◇ 「情報モラル CAN DO リスト」を見せてほしい。(提示後)情報教育を進める目安となっていることがわかる。小学校で身に付けるべき技能の内容を確認し、中学校へ継承していくことは、とてもよい。
- ◇ 児童の回答の様子で、前年度よりも低い数値になっているところが気になる。自分(たち)のことを厳しく見ているところもあるのかもしれないが、自信をもって取り組ませてほしい。

4 今後の教育活動の改善について



- (1) あいさつを中心とした「小さな親切」運動を家庭・地域等と連携して推進し、児童の「自治力」を高めていきます。
- (2) 情報モラル教育や各教科等での児童同士の学び合いの様子を、学校・学年から情報発信します。
- (3) 小中一貫教育の取組の工夫改善に努め、児童の自己実現に向けて努力する力を育みます。



東陽中学校区の小中学校では、毎月14日を「トヨーの日」として、家庭内のコミュニケーションをより深めていくための「家ぞく団らんの日」としています。本校では、NIE教育と関連付けた取組にもご協力いただき、感謝いたします。

